【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年1月24日(2023.1.24)

【国際公開番号】WO2021/225136
【出願番号】特願2022-519963(P2022-519963)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/01(2006.01)
Ａ６１Ｂ　1/00(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/01　５１４
Ａ６１Ｂ　1/00　６３２
Ａ６１Ｂ　1/00　６５２

【手続補正書】
【提出日】令和4年11月10日(2022.11.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
内視鏡用ノーズピース１０は、挿入部３を患者１の鼻Ｎから抜去した後、ドレープ１２とともに患者１の鼻Ｎから抜去して廃棄されるディスポーザブルタイプのものである。これにより、内視鏡用ノーズピース１０は、患者１の鼻から抜去した後、ドレープ１２に包んで廃棄することができるので、付着した患者1の飛沫が拡散することなく内視鏡用ノーズピース１０を廃棄することができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７１】
また、上記第１実施形態と同様に、内視鏡用ノーズピース６０は、患者１の鼻から抜去した後、ドレープ１２に包んで廃棄することができるため、付着した患者1の飛沫が拡散することなく廃棄することができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】
また、１本ずつのスリット６３Ａ、６４Ａを設けた上記実施形態の流体抑制部材６１では、挿入部３を挿入する際、第１多孔質部材６３の中心を狙わないと、第２多孔質部材６４のスリット６４Ａの位置からずれるため、挿通抵抗が大きくなるが、流体抑制部材７０の場合、３本の第１スリット７１Ａ～７１Ｃ、及び第２スリット７２Ａ～７２Ｃが第１多孔質部材７１と第２多孔質部材７２の中心にガイドするため、挿入部３を挿入する際、中心を狙う必要が無い。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００８５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８５】
ドレープ８５は、上記各実施形態のドレープ１２、４２と同様に、厚みが小さく、四角形のシート状に形成されており、例えば、透明なビニールシートから形成されている。ドレープ８５は、流体抑制部材８３の外形に合わせた開口部８５Ａが形成されている。これにより、ドレープ８５が流体抑制部材８３を塞ぐことがないため、流体抑制部材８３を通して、挿入部３を管路１９に挿入することができる。なお、図２１におけるドレープ８５は、図示の都合上、開口部８５Ａの周囲（２点鎖線で囲む範囲）のみを切り取って図示しており、実際の大きさは、２点鎖線で囲む範囲よりも大きい。